



# 第14回堺市議会 議会報告会

令和6年11月24日（日）

○田淵和夫議長 皆さん、こんにちは。

ただいまから「第14回 堺市議会 議会報告会」を開催します。

私は、堺市議会議長の田淵和夫でございます。

本日は大変お忙しい中、議会報告会にご参加いただき、本当にありがとうございます。

今回で14回目となる議会報告会ですが、これまでは本会議場や本庁舎の議会フロアで開催をしてきましたが、市民の皆さんにとって、より身近な開かれた議会となるよう、本日は初めての試みとして、中区・北区それぞれの区役所で開催することとなりました。

本日の報告会は2部構成で行います。

第1部は、「議員による議会報告」として、私たちがいる本庁舎の議会フロアと、皆さんがおられる、北区役所・中区役所の3か所をオンラインでつなぎ、まずは、議員から議会の役割や、若者・子育てに関わる施策など、議会での審議内容を説明いたします。

そのあとに、質疑応答の時間もありますので、皆さんから積極的に質問をいただければと思います。

第2部は、中区・北区、それぞれの会場で4つのグループに分かれ、皆さんと議員の間で自由に意見交換を行います。

例えば、「若者、子育て世代が住み続けたいと思うまち」など、グループごとに関心のあるテーマを選んでいただき、活発な意見交換を行っていただければと思います。

本日は、若い世代の方をはじめ、多くの方にご参加いただいています。

多様な意見を聴き、これからの議会活動に反映させることが、私たち議員の大切な役割であります。

本日まで参加いただいた皆さんの、様々な意見をお伺いできることを本当に楽しみにしています。

結びに、本日の議会報告会が、皆さんにとって有意義なものとなることを心よりお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、池尻秀樹議会運営委員長、司会進行をよろしくお願いいたします。

## 第14回堺市議会 議会報告会

### 本日のスケジュール

	時間	内容
開会	13:00～ 13:05	開会の挨拶(田淵和夫議長)
第1部 議員による 議会報告	13:05～ 13:40	①「議会の役割と若者・子育て世代への堺市の取り組み」 (淵上猛志議会運営委員会副委員長) ②質疑応答
	13:40～ 13:45	休憩
第2部 議員との 意見交換	13:45～ 14:55	懇談テーマ例 「若者、子育て世代が住み続けたいと思うまちについて」 「若者の政治参画について」など
閉会	14:55～ 15:10	お礼の挨拶(札幌泰司副議長) 記念撮影(テーブル別及び各区参加者全員)

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 皆さん、こんにちは。

私は本日の総合司会進行を務めます、本会議の運営等を協議する委員会である、議会運営委員会委員長の池尻秀樹です。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

皆さん、本日は、議会報告会にご参加いただきありがとうございます。また、インターネット中継をご覧いただいている皆さん、ご視聴ありがとうございます。

それでは、本日の進行スケジュールについて説明します。

スクリーンをご覧ください。

本日の議会報告会は、2部構成で実施します。

まず第1部ですが、「議員による議会報告」としまして、淵上猛志議会運営委員会副委員長から説明を行います。

その後、質疑応答の時間を設けますので、皆さん、色々と質問をしてください。

第2部では、引き続きこのテーブルで、参加者の皆さんと議員とで意見交換を行います。

テーマについては、例えば「若者、子育て世代が住み続けたいと思うまちについて」や、「若者の政治参画について」など、テーブルごとに関心のあるテーマを選んで、意見交換を行っていただきます。

意見交換会が終了しましたら、本日の議会報告会は閉会となります。  
なお、閉会后、テーブルごとに記念撮影の後、各区参加者全員で記念撮影を行いますので、よろしくお願いいたします。

## 第1部 議員による議会報告

### ①議会の役割

### ②若者・子育て世代への堺市の取り組み

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 それではここで、本日の出席議員を紹介します。

まず、先ほどご挨拶いたしました、議長の田淵和夫議員です。

○田淵和夫議長 どうぞよろしくお願いいたします。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 副議長の札幌泰司議員。

○札幌泰司副議長 よろしくよろしくお願いいたします。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 議会運営委員会副委員長の淵上猛志議員。

○淵上猛志議会運営委員会副委員長 よろしくよろしくお願いいたします。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 ただいま紹介しました議員以外にも、本日は多くの議員が参加します。

第2部の各テーブルで自己紹介しますので、よろしくお願いいたします。

それでは、第1部「議員による議会報告」を始めたいと思います。

まず、議会の役割・審議等報告についてご説明します。

淵上猛志議会運営委員会副委員長、よろしくお願いいたします。

# 議会の役割

堺市議会



○ 瀧上猛志 議会運営委員会副委員長 議会報告会にご参加の皆さん、改めましてこんにちは。

堺市議会の議会運営委員会副委員長の瀧上猛志と申します。

私からは、まず議会の役割を説明させていただきます。

## 多くの市民の暮らしには、多くのものがが必要です

税金等で必要なものを作ったり、  
運営したりするのが市役所で、  
その責任者が**市長**です。



市長は大事な役割を担って  
いるので、**選挙**で**選びます**。



このまちには、たくさんの方が住んでいます。「たくさん」というだけでなく、それは実に「多様」です。「ゆたかな暮らしをするために、このまちに何が必要か」を聞けば、いろんな答えが返ってくるはずです。生活をするには「道路」が必要です。子どもたちの「学校」もなくてはなりません。「保育所」もそうでしょう。

こうした「必要なもの」を、皆さんから集めた税金で作ったり、作った施設を運営したりするのが市役所で、その責任者が市長です。

市長がとても大事な仕事を担っていることは、おわかりいただけると思います。だから、市長は選挙で選びます。

## 選挙で選んだ市長に何でも任せてしまっていていい？



選挙で選ばれた  
48人の議員が  
多様な視点で  
市長をチェックし、  
多様な意見を届けて  
います

ここで一つの疑問があります。選挙で選んだ市長だったら、何でも任せてしまっていていいのでしょうか。いくら選挙で選ばれた市長でも、人間ですから、判断を誤ることがあります。たった1人で、たくさんの市民の多様な想いを把握するのは困難です。この堺市だと、80万人以上の市民が暮らしています。

ですから、同じように選挙で選ばれた48人の議員が、多様な視点で市長をチェックし、多様な市民の声を市長や市役所に届けています。そして、皆さんから集めた税金が、本当に皆さんのゆたかな暮らしのために使われるようにしています。

# 令和6年度当初予算

私たちがチェックしている「お金」です



## 【一般会計】4,675億円

福祉や教育などの基本的な事業を行うための会計

(市民1人あたり約57万円!)

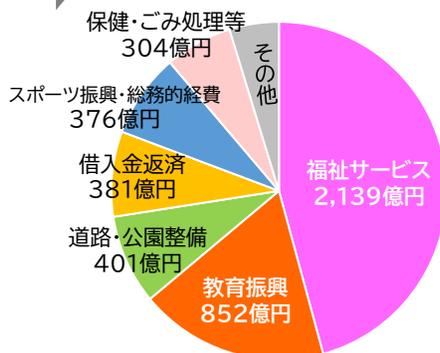
## 【特別会計】2,610億円

国民健康保険や介護保険などの特定の事業の会計

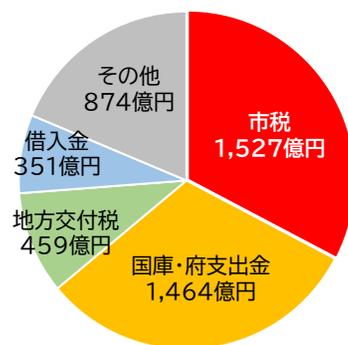
## 【企業会計】881億円

料金収入などで運営している水道・下水道事業の会計

## 【歳出内訳】 何に使っているか？



## 【歳入内訳】 どこから集めたか？



では、皆さんから集めた税金、つまり私たちがチェックしているお金がどれくらいなのか説明いたします。

堺市が福祉や教育など一般的な事業に使うお金を「一般会計」といい、その額は令和6年度の予算で4,675億円です。赤ちゃんからお年寄りまで含めて、市民1人当たり約57万円となります。

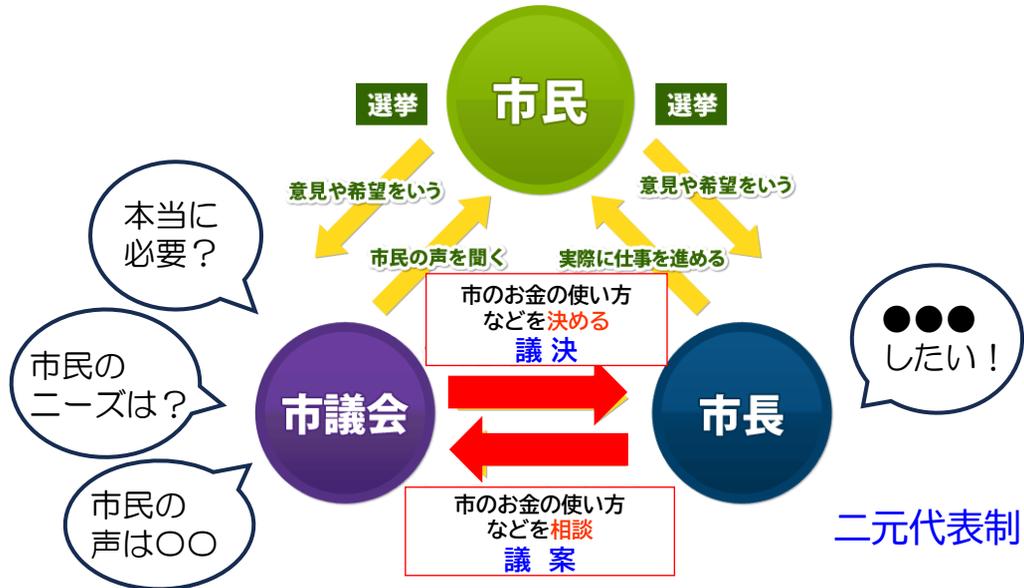
本日ここにいる皆さんも含めて、「1人57万円を市長と市役所に預けて使いみちを考え、私たちがチェックしている」と考えると、その責任の重さ、大事さがわかってもらえるのではないかと思います。

そのほか、税金ではなく、保険料として集めて特定の事業に使っている「特別会計」が2,610億円、水道料金として集めて運営している水道、下水道の「企業会計」が881億円あります。

一般会計の歳出、つまり何に使っているかは、多い順に、福祉、教育、道路公園整備などとなっています。

歳入、つまりどういうところからお金を集めたかについては、堺市が直接集めた税金「市税」1,527億円が全体の3分の1、国や大阪府が集めた税金から堺市に出す補助金の「国庫・府支出金」と「地方交付税」が次いで多くなっています。

## 市民・市議会・市長の関係



市長も市議会も、ともに市民から選ばれた、市民の代表者です。

市長はお金の使い方について提案・相談し、議会はそれを受けて色々な意見を出し、それでいいかどうか、最終決定します。

例えば、市長が「〇〇したい」と、市議会に「議案」として説明します。市議会は、「それが本当に必要なのか」、「市民のニーズはあるのか」、「市民からこういう声を聞いている」など、様々な意見を出して議論をして、「議決」として、実際に行うかどうかを決めます。

こうして、双方が市民の代表者として緊張感を持ち、バランスを保ちながら、お金の使い方や堺市の方向性を決めたり、仕事ぶりをチェックしたりする仕組みを「二元代表制」といいます。

## 議会で話し合っていること

- ①条例(市の決まり)の制定・改廃
- ②予算の決定(お金をどのように使うか)
- ③決算の認定(正しく使われたかの確認)
- ④市の仕事が市民のために正しく行われているかどうかの調査
- ⑤国や府に対して改善してほしいことの見解を出すこと
- ⑥副市長、教育長など大切な役職につく人を決めるときの同意 など

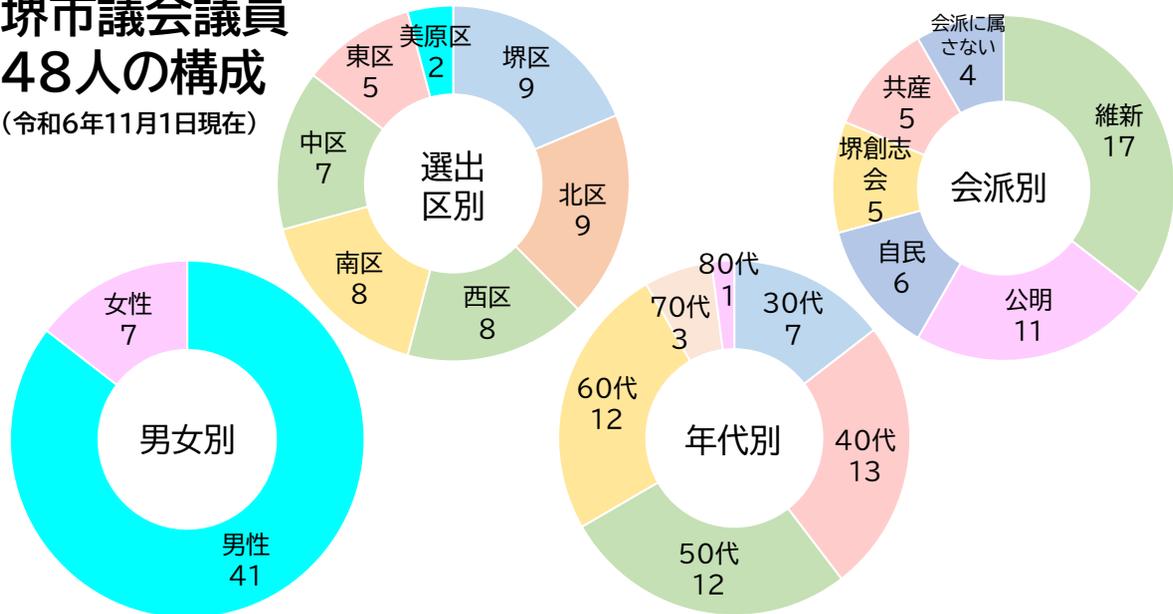


私たちが議会で話し合っていること、決めていることはこのようなものです。

条例、つまり堺市内の法律・ルールを作ることや変えること。次に、お金の使いみち、そしてお金が決めた通りに正しく使われたかの確認。さらに、市の仕事が市民のために正しく行われているかの調査。そして、国や大阪府に対して、改善してほしいことの見解を出すこと。また、堺市の大事な立場である副市長や教育長など、市長が選んだ人でいいのかどうか。そういったことを話し合い、議会として意思決定しています。

# 堺市議会議員 48人の構成

(令和6年11月1日現在)



続いて議会の構成です。

堺市は7つの区に分かれて選挙をし、それぞれに選ばれている議員の数が違います。これは、それぞれの区の人口を基にして決めています。男女別では男性が41人、女性が7人です。国会も地方議会も、日本は女性の議員の割合が非常に少ないことが課題となっています。

議会では、考え方の近い人たちで「会派」というグループを作って活動しています。11月1日現在、堺市議会では、大阪維新の会17名、公明党11名、自由民主党堺市議会議員団6名、堺創志会5名、日本共産党5名、どの会派にも属さない議員が4名となっています。

年代別には、右下のグラフをご覧のとおりで、最年少議員が本日時点で32歳、最年長が83歳です。若い方々にもっと政治に関心を持ってもらい、その中から「自分も議員に」と思って挑戦される方が出てくることを期待しています。

## 第1部 議員による議会報告

①議会の役割

②若者・子育て世代への堺市の取り組み

続いて、「若者・子育て世代への堺市の取り組み」についてご説明します。

## 出産・就学前の子育て支援

- 産後ケア(今年度拡充)
- 乳児家庭全戸訪問
- 保育料無償化  
0～2歳の第2子以降(所得制限なし)
- さかい子育て応援アプリ



など



堺市のたくさんある取組の中で子育て支援についてご紹介します。

まず、出産時や就学前の子育て支援です。産後ケアは、出産後に慣れない育児に疲れてしまいがちな母親のために、育児の支援や、心身のケアでサポートする制度で、今年度に内容を拡充しました。

また、保健師による乳児家庭の全戸訪問を行っています。

保育料について、0歳から2歳の2人目以降の子どもさんの保育料無償化を所得制限なしで、堺市独自で行っています。3歳から5歳については、国の制度で無償化となっています。

さかい子育て応援アプリは、右に画面を示していますが、スマホなどで子育て支援の情報をわかりやすく見られるようにしています。

## 産後ケア事業の拡充

### 訪問型産後ケアの支援を新設

- ・生後1歳未満の乳児と母親
- ・3回まで

### 利用金額の減額

宿泊型 5,200円→3,500円  
デイサービス型 2,600円→2,300円

### 産後ケアとは

出産後、慣れない育児に疲れてしまいがちな母親のために、育児の支援や心身のケアをしてくれるサポート



特に今年度は、産後ケア事業の拡充を行いました。

これまで施設に母子が出向く宿泊・デイサービス型だけだったのですが、今年度より助産師などが自宅に行く訪問サービスも始まりました。生後1歳未満の乳児と母親が対象で3回まで利用できます。また、利用金額も今年度、減額をしました。より使いやすいように取り組んでいます。

## 出産・就学前の子育て支援について

### 議会での議論・各会派や議員の意見

#### ・産後ケア

1歳未満  
乳幼児の  
母親からの  
ニーズに  
応えるもの



#### ・第2子保育料完全無償化

令和5年度  
からスタート  
したのは良  
かったが…



令和3年度の開始  
予定を延期して、  
対象者を限定して  
きたことは問題

延期せず予定通り  
実施すべきだった



#### ・保育人材の確保

「保育教諭等充実補  
助費」カットに困っ  
ていると保育現場から  
聞いている

保育士確  
保のため  
の支援を



議会は、市長の議案についてチェックしたり、改善のための提案をしていることは最初にご説明しました。

それでは、出産・就学前の子育て支援について、議会ではどんな議論があったのかご紹介します。

産後ケアについては、これまでも事業の拡充を求める議論があり、今年度の拡充は評価する意見が多数ありました。

0歳から2歳の第2子保育料無償化は、これまで1年度ごとに計画的に対象年齢が広がられてきて、本来は令和3年度実施の予定で進められてきました。しかし財政を理由に延期されてしまい、議会からは実施を先延ばしにすることへの批判や、延期期間に無償化の対象から外れた方への保障をすべきという意見が出されました。

また、保育士不足は全国的な課題ですが、市町村は保育施設に対し、人材確保のための様々な支援策を行っています。堺市は、人材確保のための「保育教諭充実補助費」を令和3年度に突如半額にまでカットしましたが、保育現場から「元に戻してほしい」とお聞きした声をもとに要望が出されたり、近隣市との支援策の格差を広げないよう、処遇改善策などの実施を求める意見がありました。

## 就学期の子育て支援

- 子ども医療費助成  
0～18歳まで所得制限なし
- 学校給食の食材費高騰支援
- 大学生・高校生の給付型奨学金（今年度拡充）
- ヤングケアラー世帯への訪問支援



など

続いて、就学期の子育て支援の取組です。

子ども医療費助成は、0歳から18歳まで所得制限なしで行っています。1回500円、1か月に同じ医療機関なら2日までの負担で医療が受けられます。最近では18歳まで助成する自治体は増えてきましたが、堺市は全国的にも先駆けて、18歳までの助成に取り組んできました。

学校給食に対して、食材費高騰分を支援しています。物価高騰で食材費が上がる中で徴収する給食費はそのままに、高騰分を堺市が負担し、栄養や量を保った給食を提供しています。

また、堺市独自の奨学金制度を今年度拡充しました。

ヤングケアラーのケア負担を軽減するため、ヤングケアラー世帯への訪問支援を行っています。

## 堺市独自の給付型奨学金を拡充

### 大学生などへの 給付型奨学金を新設

- ・年額12万円
- ・対象120人

### 高校生向け奨学金を拡充

- ・1年生のみ年32,000円を  
全学年に拡げ年6万円に
- ・対象500人



今年度拡充した堺市独自の給付型奨学金について紹介します。

大学生、短期大学生などへの給付型の奨学金を新設しました。所得制限・成績要件があり、全員ではないのですが、120名を対象に年額12万円を支給します。

また、従来からある、高校生向け奨学金を拡充しました。これまでは1年生及び特別支援学校高等部の1年生から3年生に年32,000円の支給でしたが、これを全学年に広げ対象人数は500人、金額も年6万円としました。

## 就学期の子育て支援について

### 議会での議論・各会派や議員の意見

#### ・学校給食

長年求めてきた  
中学校給食が  
来年6月から  
実現！



給食調理場に  
エアコン設置  
が必要

#### ・教員の確保、働き方改革

早急に教員不足  
の解消を



教員の業務負担を  
軽減すべき

スクールサポート  
スタッフの  
処遇改善を

#### ・学校の環境整備

体育館のエアコン  
設置に国の補助金  
を活用できるよう  
取り組むべき



就学期の子育て支援について、議会の議論はどうだったのでしょうか。

学校給食について、堺市では来年6月から全員で食べる小学校のような中学校給食が始まります。議会でも求めてきたもので、開始に向けて、より良い給食となるよう意見が出されています。給食費の無償化に取り組む市町村が増えている中で、堺市でも無償化を実施することへの要望や、夏場高気温の作業となる給食調理場にエアコン設置を求める意見がありました。

教員の不足や業務の多さも全国的な課題ですが、堺市の学校でも欠員が解消されず、すぐにでも確保できる対策を取ることを、全ての会派・議員が求めています。教員の業務負担を軽くするため、サポートする人材を処遇も充実させながら増やすことなど意見が出されました。

体育館のエアコンについて、令和8年度から設置が進められていきますが、空調設置の国からの財源補助メニューが終了してしまうことについて、期間延長を国に要望する意見書が全会一致で可決されています。

また、堺市独自の給付型奨学金について、条件を緩和し、対象者をさらに拡充するよう要望が出されています。

他に、百舌鳥・上神谷の2つの支援学校の教室不足の解消や、その対策として堺市教育委員会が進めている宮園小学校への分校設置などについても、より良い支援教育とな

るよう、多くの意見が出されています。

学校現場では様々な課題があり、議員にとっても子どもや保護者、教職員や地域の皆さんからのご意見、ご要望をお聞きする機会が多く、改善を求めて毎回多様な議論が行われる分野です。

## 若者への支援

- 子育て世帯等空き家活用定住支援事業補助金（今年度拡充）
- さかいJOBステーション
- さかい学生&若者応援DAY in summer

など



続いて若者、若年世帯への支援です。

1つ目は、子育て世帯等空き家活用定住支援事業補助金という制度で、今年度に内容を拡充しました。

2つ目に、さかいJOBステーションとして、ハローワークで若者の就職支援を行っています。「やりたいことの見つけ方」や「就職活動の進め方」など、就職アドバイザーとの個別相談や、セミナーなどを行っています。

3つ目に、さかい学生&若者応援DAY in Summerというイベントに取り組んでいます。コロナや物価高騰の中でも安心して生活できるよう、食料品や災害備蓄品を活用した生理用品の提供や、相談支援などを行うもので、今年は7月6日に行い、155名に参加いただきました。

## 子育て世帯等空き家活用定住支援事業補助金

若年世帯・子育て世帯が  
市外転入や賃貸からの転居で  
空き家を購入した場合に、  
最大120万円の補助

対象を若年単身世帯にも拡充



今年度拡充した「子育て世帯等空き家活用定住支援事業補助金」について紹介します。  
市外からの転入や市内の賃貸住宅からの転居で、空き家を購入した若年世帯・子育て世帯に、購入費用に対して最大120万円を補助しています。今年度から、配偶者がいない若年単身世帯も対象に拡充しました。

## 若者への支援について

### 議会での議論・各会派や議員の意見

・さかい学生&若者応援  
DAY in summer

堺の若者を応援する  
取組みになっている



・さかい  
JOBステーション

就職の  
マッチングに  
一定の成果



・子育て世帯等空き家活用  
定住支援事業補助金

申請が少ない  
ためさらなる  
周知が必要



あわせて  
若年世帯への  
家賃補助制度  
の創設を



若者への支援について議会の議論をご紹介します。

「さかい学生&若者応援DAY in Summer」について、「堺の若者を応援する取組みになっている」「参加者が増えるよう周知を」と意見がありました。

「さかいJOBステーション」について、就職のマッチングに一定の成果を上げているという評価とともに、働き方の多様化が一層進む中、求職者のリスクリングや、企業側の柔軟な受入れの支援をと要望が出されています。

「子育て世帯等空き家活用定住支援事業」は、昨年度の実績が30件分の予約枠に対して、申請が10件。空き家対策や定住を促進するためにも、申請者が増えるよう、制度の周知が必要との意見がありました。同時に、若年世帯向けの家賃補助制度を創設するよう要望が出されました。

ご紹介した項目以外にも、毎回の議会で様々な議論が行われています。

## それぞれの区取り組み

区役所では、区民ニーズなどを踏まえ、区の実情に応じた様々な事業を実施しています。



堺市では、それぞれの区の実情・特性に応じた取組を推進しています。

区役所では、区民ニーズなどを踏まえ、主体的かつ総合的に区域の実情に応じた様々な事業を実施しています。

本日ご参加の皆さんがお住まいの地域についてご紹介します。

## 北区役所の取り組み

### ようきた(北) ね！子育て三ツ星プラン

- ・「ジブン進化88号（パパごう）」  
パパ対象の交流会

### 北区“は”っぴーすまいるプロジェクト

- ・「はみがきうさぎ」と区民が一緒になって北区内にお口の健康の大切さと笑顔を広げる取組を展開



まず、北区役所の取組を紹介します。「ようきた(北)ね！子育て三ツ星プラン」は、地域全体で子育て支援をするため、様々な取組をしています。

その中の一つ「ジブン進化88号(パパ)号」は、あるパパさんからの「パパどうして交流したい」「子育てするパパに伝えたい」という声で生まれました。パパの育児参加を促し、仲間づくりのきっかけとなる交流会や、親子での簡単な製作物の作成も行っています。パパだけ、子どもといっしょに、プレパパも参加できます。

「北区“は”っぴーすまいるプロジェクト」は、子どもに人気の高い「はみがきうさぎ」を活用し、子どもから親・祖父母世代に、歯と口の健康啓発を広げることで、区民全世代の健康の取組を促進しています。また、区民参加型の健康啓発として実施することで、北区みんなのまちづくりビジョンに掲げる「たのしいでつながる街・北区」の具現化をめざしています。

## 中区役所の取り組み

### なかいろ

- ・「小学生なつやすみ企画」  
小学1～3年生と保護者が  
対象の企画



### SHSなか学コミュニティ事業

- ・中区内の高等学校3校の  
生徒でミーティングを開催



第32回会議の様子  
(令和6年7月開催)



令和2年度の作成物  
特殊詐欺啓発用グッズ

次に、中区役所の取組を紹介します。

「なかいろ」は、子育ての不安を1人で抱え込むことのないよう、人とのつながりが持てる様々な取組を実施しています。

その中のひとつ、「小学生なつやすみ企画」は、小学1年生から3年生の子どもとその保護者を対象に、学生ボランティアに協力いただいて楽しく交流できる企画を行いました。

他にも「実家が遠い、堺に転入3年以内の保護者の会」など取り組んでいます。

「SHSなか学コミュニティ事業」は、中区内の高等学校、精華高等学校、大阪府立東百舌鳥高等学校、大阪商業大学堺高等学校の協力を得て、3校の生徒が一同に集まるミーティングを開催し、若者の視点を生かしながら、中区の実施事業や課題について意見を出し合います。

これまで「女性防犯」や「交通安全」「特殊詐欺」の啓発グッズの作成や、各学校での交通安全啓発講座などに取り組みました。

# 議会報告

ご清聴ありがとうございました。



「議会の役割と、若者・子育て世代への堺市の取り組み」ということでお話させていただきました。

皆様のご要望なども、第2部でお話しいただければと思います。

以上をもちまして、第1部、議会報告を終わらせていただきます。ご清聴誠にありがとうございました。

## 質疑応答

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 淵上猛志議会運営委員会副委員長、ありがとうございました。

それでは、ここからは質疑応答の時間とします。時間の都合上、挙手いただいた皆さん全員に発言いただけない可能性があります、その辺りはご了承ください。

なお、質問していただくときは、指名させていただきますので、指名されましたら、マイクをお渡ししますので、質問をしてください。それでは、質問のある方はおられますか。北区・中区どちらでも、挙手していただいて結構です。

北区の2番のテーブルの方どうぞ。

○参加者（北区） 私は他のことでちょっと質問したいことがあります。子育てもとっくに終わっていますので、若者でもないし。そういうふうなところで質問してもいいのですが、私はもっと他のことに関心があって。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 他のテーマで質問してもよろしいですかということですね。

それは構いませんので、ご質問どうぞ。

○参加者（北区） 美原区は堺市と合併して20年経ったのですが、私ども美原の人間は、用事があって堺市役所へ行かなければならないときに、なかなか簡単には行けないです。

（SMI美原ラインは）今も3回目の実証実験ということで、美原区役所から堺東、南海本

線の堺駅までの直行バスが出ているのですが、いつ本実行してもらえるのかな、と私は願っています。ぜひ本実行をやってほしい。

これが実施されることによって美原区役所前にできた2つの大きな商業施設へ、堺市中心部あるいは西の方からも直接来られるような方が増えれば、税収も増えるだろうと思います。近隣の事例でいいますと、狭山の100円バスです。そのバスは大阪狭山市が運営しており、大阪狭山市民でなくても誰であっても100円で乗れるのですが、そのバスの路線は、直接美原区役所まで延びています。そのような近隣の実態もある中で、なぜ美原区の間がなかなか市役所へ行けないのかなと思っております。ぜひ、とにかく本実施をしてほしい。いろいろ需要があると思います。以上です。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 はい、わかりました。

今から副議長がご答弁いたしますので、札幌副議長よろしく申し上げます。

○札幌泰司副議長 はい、ご質問どうもありがとうございます。

このSMI美原ラインですが、これにつきましては議会の方でも、真摯に議論を続けているところでございます。実際にどれだけのご利用者の方がいるのか、同時に事業者の方は採算がとれるのかどうか、そういったところが、この実証実験の中で、今検討をさせていただいているところかと思っております。

議会としましても、このSMIプロジェクトで美原区の方々が、特に堺東方面に対しての交通の利便性の向上というのは必要であると考えておりますので、実証実験から、早期に本実行に移るように、議論を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 よろしいでしょうか。

それでは中区の方、先ほどお手を挙げられていた方、どちらでしょうか。

○参加者（中区） 昭和26年に出された児童憲章には、「すべての児童は、よい遊び場と文化財を用意され、悪い環境からまもられる。」とありますが、その辺りがまるでできていないのではないのでしょうか。

良い遊び場というものが都心部にはほとんどなくなってしまった。公園というものはあまり維持ができない。かつてのように、広場や原っぱで子どもたちが心ゆくまで暴れまわれるような、そういう空間が欲しいと思います。それと悪い環境、ネットなんかでは子どもたちが餌食にされており、それをどうして制限しようとならないのか。

ものの始まりなんでも堺というように、子どもたちを餌食にするようなサイトは断固許さない、これぐらいの気合の入った対応が欲しいと思います。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 今の質問についてですが、児童憲章ですね。

渚上議運委員会副委員長、お願いします。

○渚上猛志議会運営委員会副委員長 子どもの良好な遊び場と、またネットに対してのご意見だったと思います。ちょっとすみません、音声の一部聞き取れないところがありました。

子どもの遊び場に関しては、今も都市計画公園が整備しきれていないのですが、段階的に整備していく計画がこのほど出されましたので、我々もそうした緑や子どもが遊べる空間が広がるように、議会としても力強く後押ししていきたいと、多くの議員が思っているところであります。

また、同じ1つの公園でもいろいろとルールが課せられて、子どもたちがボールなどでもなかなか遊びづらい部分も出てきておりますが、その辺りはいろいろな方々に啓発など進めて、気持ちよく遊べる公園にしていきたいと思っております。

ネットの空間に関しましては、表現の自由とか問題もあるのでなかなか難しい面もありますが、少なくとも子どもたちが悪い情報に引っ張られないように小学校・中学校のうちから、ネットから得られる情報をしっかりと峻別する力をつけられるように、ネットリテラシーが身につく教育にも、堺市教育委員会として力を入れているところです。以上です。

○池尻秀樹議会運営委員会委員長 そろそろお時間となりました。

それではこれで質疑応答を終了し、第1部の議会報告会を終わります。